

松阪市新エネルギー推進委員会第3回木質バイオマス専門部会

日時： 平成26年10月23日（木） 午後7時00分～午後9時30分

場所： 松阪市飯高地域振興局 2階大会議室

概要： 1. 木質バイオマスの活用率向上に関する具体策の検討
2. その他

出席： 18名

（委員）4名

大西大輔部会長、中谷正則、川口伸、西川幸成

（アドバイザー）2名

三重県松阪農林事務所 森林・林業室 中村好範、北出満

（名古屋大学）4名

高野教授、福島教授、研究補助（永利・井筒）

（事務局）8名

武田環境・エネルギー政策推進課長、磯田スマートワーク推進担当監兼環境
エネルギー政策室長事務取扱、徳田環境エネルギー政策室主任、環境エネ
ルギー政策室（世古）

竹岡林業・農山村振興課長兼飯高地域振興局地域整備課長、林業係（北垣戸・
山下）、杉本松阪飯南森林組合参事

傍聴者：0名



〈議 事 等〉

(1) 木質バイオマスの活用率向上に関する具体策の検討

部会長：

まず、配布した資料の説明を行う。1つめは木の駅プロジェクト。小規模林家を対象とした事業である。ウッドピア買取単価7,500円/t、運搬1,500円/t、買取場所は市内3カ所。精算は月2回を予定している。手数料は組合規定で1100円/tと決まっ
ていて、これをお願いしたい。以上を考えると、買取単価は4,900円/tになるがこれ

ではインパクトがないため、市の助成 1,100 円/t を加えて 6,000 円/t としたい。

続いて 2 の森林資源循環林プロジェクトについて。これは森林所有者や事業者を想定している。一点目は、運搬補助。今は 350 円/m³ としているが、三重県の補助が 500 円/t となっていて、できればそれに合わせてほしい。二点目は再造林の協定締結についてである。地ごしらえ、植栽など含めて費用が 30 万円/ha かかり、誰も皆伐をしない状況となっている。よって、これらについての補助金を出してもらえれば、影響は大きいと考える。協定に関する各々の義務だが、森林所有者には 10 年間の植えた後の管理をしてほしいという義務はどうかと考える。素材生産業者については、バイオマス発電への定量出荷義務をお願いしたい。また、少しでも植栽にかかるコストを抑えるため、架線を使って防護柵を上部に吊り上げる運搬支援をお願いできないかと考えている。森林組合は植林及び下草刈りを実施、また松阪市には、運搬と植林への補助をお願いしたいと考えている。

事務局：

皆様からのご意見をください。

名古屋大：

まず、運搬補助についての単位だが、m³ かトンかどちらか？

委員：

今は m³ であるが、これまで持ち込みしてきた経験上、1m³=1t として換算しているため、誤解無いようトンとして記載したい。

名古屋大：

運搬費 1500 円/t と記載されているが、土場から発電所への距離はどれぐらいか？

委員：

平均すると 18-20km ぐらいかと考える。

名古屋大：

それだとリーズナブルだ。さて、(1) 木の駅 (2) 森林資源のどちらもバイオマス発電所行きだが、どちらがどれぐらいのボリュームを想定しているのか。

委員：

やってみないと分からない。

名古屋大：

(1) だと林道 50m 以内が終ると出てこなくなると思う。この値段の根拠を説明してほしい。

委員：

6,000 円/t は意欲のわく金額だ。これは個人を想定しているので、それほど年間面積できないので、資源がなくなるほどではない。

名古屋大：

そもそも、現在林業に従事されている人数はどれぐらいか？

委員：

従事されている人数は減っている。定年した方は増えているので、そこにどうい
うアプローチをかけて底辺を増やすことは可能。伐倒を専門業者がやって、玉切り・搬
出を素人さんがやるという手法を展開できれば増加させられるのではないかと考え
る。

名古屋大：

それで、どれぐらいの搬出量が見込めそうか。

委員：

どれぐらい出せば経済効果に匹敵するのか、逆に知りたいと考える。

名古屋大：

年間 56,000t のうち、どれぐらい松阪で賄うのか、という目安はあるか？

委員：

15,000t ぐらいは松阪市から、県内から 20,000t ぐらい出てくるとありがたいなあ
と考える。すでに搬入が始まっており、9 月で 5,400t だが 10 月だと 6,000t を越え
てくると考える。このうち 9 月は八割が県外だ。どうせお金を支払うので、市内の方
に支払いたい。目標値（名大提出資料）を 10,000t と書いているがこれはどういうこ
とか？

名古屋大：

自伐林家 16,000m³ 出している実績があるのでそこを目指してはどうかという提案
だ。民間、行政がどこまでやるか、認識を共有するために書いた。木の駅プロジェク
トでそこまで集めているところはないが、不可能ではないと思う。

名古屋大：

一般の方だと作業道から 50m 以内ぐらいじゃないと厳しいと思う。最初の 1,2 年で
どっさり出ても意味が無い。数値目標がないと。

委員：

うちは何トンでも買えます。

名古屋大：

未利用材は、間伐と皆伐どちらが多いか？割合はどうか？

委員：

間伐・主伐が 7 割。ところで、搬入された材をトラックからどう下ろすのか？

委員：

リフトを使う予定。

委員：

2m ものだと短すぎないか？

委員：

バケットなので対応可能。枝葉は考えていない。

名古屋大：

伐採はプロ、収集を素人という話があったが、そこまで考えているのであれば、小規模林家だけでなく、一般市民も登録して収集すると効果があるような気がする。

委員：

そういった想定はしているが、まずは或る地域を指定してから始めていきたい。

名古屋大：

何人かは、自分たちが使う電気のためならというボランティアでやる人もいると思う。

委員：

搬出は、上から落とすのみか？

委員：

もちろんそうだ。買取単価 6,000 円/t はわりと高いので、他の木の駅プロジェクトでやっているような、ポータブルウインチなどを使うというのも 1 つの方法だ。

委員：

誰かに伐採させて、捨てるというのは無理や。自分でやらないと。

名古屋大：

長さの規定は？

委員：

4m まで。短いのはいくらでも大丈夫。

委員：

なぜ長いダメなのか？

委員：

つり込みの関係だ。

名古屋大：

未利用材を出してくるのは結構だが、これまで治山等で土止め材として有効に使っていたのだろうが、木の駅によってその材が使われるのはどうかと思うがいかがでしょうか。

県：

治山工事以外は、そのまま切り倒しているなのでその資源を奪うことはない。

委員：

ところで枝葉だと、石、ワイヤー、土、瓶などが入っている。始末悪い。軽そうに見えるが、押し込んであるので結構載っている。ただ、枝がついている分は、うちは問題無い。プロセッサを持っているところは枝を落としてくるが、持ってないところは大変なのでついたままでもいい。形状も量も、指定はないので大丈夫。商工会の商品券はどうする？

事務局：

飯高・飯南で、すでに、商品券があり 70 店舗が参加している。コレであれば、ガソリンスタンドや酒屋さんでどこでも使える。6000 円分全部地域通貨だったら、出荷者はきつい。

名古屋大：

6,000 円/t のうちの 1,100 円が地域通貨か？

事務局：

決めていない。買取単価 6,000 円/t は十分に高いので、量のことについては試行してやってみて、早いうちに候補者に声かけて、実際にやってみてアピールしたい。今は搬出量の予測はできない。

委員：

6000 円/t であれば持ってくるでしょうね。うちにも一般市民から出荷したいという電話がかかってくる。期待はある。もってきたい人は潜在的にいる。

事務局：

7500 円/t という話が広まっている。

名古屋大：

材の収集と直接関係ないが、担い手の育成についてやっていかねばならない。職業訓練みたいなこともやれたらいいと考えるがどうか。

委員：

若くてもできる人はいる。出来ない人も、これからやっていきたい。普及していくのはいいが、事故がかなり不安。その責任については検討する必要がある。

名古屋大：

将来のプロ育成については必要だ。

※名古屋大からの提案を説明

名古屋大：

かなり力を入れてやらないと、他のバイオマス事業との競争になる。数値目標を立てて計画的にやりましょう。外的要因へのチェックも必要だ。東京五輪では FSC 認証がないと使わない。そういったことを視野にいれながら政策を作り、事業をやるべきだ。松阪の場合はウッドピアがあるので、材が集まってくる。再エネは地産地消でやるべきであって、そこを重要視しないと他に負ける。

委員：

多気はウッドピアから搬出する。津は PKS と輸入材である。PKS は取り合いだが、実際には出ていない。商社が最近使い道無いけど購入した。これは、買ってもらえないなら契約きると言われ、仕方なく購入している。

林業者は、何年も待ってられない。5MM だと 7500 円/t 以下での購入でないと厳

しい。

名古屋大：

そもそもバイオマス発電を作るのは、拡大造林された未利用材を使おうという発想。そこに PKS を使うのはありえない。

委員：

韓国がバイオマス政策を変えた。そのため、材が余っている。

名古屋大：

PKS の買取単価は 24 円/kWh だが一般材は？

委員：

24 円/kWh。海外のどこの材でも 24 円/kWh。ただし証明が必要。確かに、ちょっとおかしい。アーモンドの材という話もある。

名古屋大：

松阪にあるバイオマス発電所が海外材燃やしても、市民の理解を得られないと思う。一番いいのは、林業が活性化して、端材を利用し、付随して未利用材も出てくる。そのバランスが必要になってくる。森の循環の過程の中で、上手に使うという発想が必要。

委員：

用材がどのような展開をしていくのか。

名古屋大：

公共施設を木造で、という働きかけはしていきましょう。ウッドピアは JAS の認証を受けているか？

県：

集成材はとっている。乾燥、賃引きの工場もとっている。

名古屋大：

FSC 認証を受けている材の割合はどれぐらいか？

県：

ほとんどない。

委員：

ちなみに速水林業は取っていて、その傘下はみんな認証取れる。

名古屋大：

松阪の若手林家（40 代以下）はどれぐらい育っているか？

委員：

うちは 7 人ぐらいいる。

委員：

うちは 6 人です。

委員：

作業員全部で11人いるが、2人が50代で9人が40代。

委員：

将来の仕事量があるかないかが心配で、だから新規雇用に踏み出せない。

名古屋大：

需要を創出しなければ林業はダメ。ウッドピアの装置を100%稼働させるのも1つですね。

委員：

この木の駅プロジェクトはこの会議でやろうとなったらやるか？

事務局：

部会の成果品を持って議論するので、すぐには決められない。

事務局：

数値目標について。経済効果等のビジョンがないと、説明責任が果たせない。どれぐらいの材が山にあって、商品券でどれぐらいの経済効果があるのか、というビジョンがないと、行政としては説明しづらい。そういったものを作成してやっていきたい。この部会での成果品を持って、来年度以降どういった施策をやっていくか、ということを決め、投資していきたいと考えている。

委員：

トラックスケール設置費必要ですよ？森林組合は出せない？

委員：

そこは詰めないとダメだ。

委員：

2の事業は、数値が出しやすいのではないかな。

名古屋大：

航空写真を使うなど、概算でよいから数値目標が欲しい。

委員：

まずこの2つの提案について、改めてご意見をいただきたい。

委員：

この2つが地域から出された提案。これについて、名古屋大学からいいのではないかとということであり、さらに効果や賦存量についての論点があるが、まずはこの事業の推進について、進めていこうということを共通の認識を持ちたい。

委員：

立場が逆ではないか？せっかく委員が提案しているのだから、もうちょっと市が前面に出てほしい。

事務局：

現状を見ていただき、大学から提案してもらおう。そういう中で、地域から意見吸い上げて、それを事業化するのがよいのではないかなと思う。これが地域からの声だ、と

いうことで理解した。

委員：

「こうしたらいい」など、民間側に具体的に伝えてもらいたい。

事務局：

将来的なビジョンがあれば、支援をしやすいのでそういうものを、部会の中で作り上げたい。

名古屋大：

未利用な木材を収集するための仕組み、再造林するための仕組み、いい構図だと思う。あとは、数量的な見通しが気になる。大学の役割として、松阪に対して、長期的なことを見据えながら、どういう松阪市になるかということ、周囲から尊敬されるか、住みやすい都市になるか、について助言申し上げていくことがメイン。専門的な部分についても助言を行うが、上位概念を中心とした観点から意見を申し上げたい。

名古屋大：

自分としては実際に木の駅プロジェクトの事務局もやっていて、実際にやってみた際にやはり色々な見えないコストが掛かってくるのでそういった具体的な、細かいところのアドバイスもできると思うが、今はそれを伝える段階ではない。

委員：

個人林家が 200 おるんですね。ですから、どれぐらい参加するか分かりませんか？

委員：

やってみてどうか、ですね。

名古屋大：

森林組合の提示する 1,100 円/t の手数料の内訳は？

委員：

人件費、土場、フォークリフトなどと、西川さんところに持っていくと軽くなるのでそこも見ている。ここで計量した重量で搬入できればよいのだが。

委員：

うちは、県に事業者登録している。計測証明を森林組合が認定取ってもらえれば、こちらで測る必要ない。ただ認証用のトラックスケールがないとダメだ。少し高い。県がいいと言えればいい。

県：

1つ OK と言え、他に影響出てくる。よって、厳しい。

委員：

リースでも計量証明を県から出してもらえればいい。

事務局：

発電所名義で森林組合に置いてもらったら？

委員：

機械にたいしての認証だから、ダメだ。

事務局：

データとして1回だけのほうがシンプルではないか？

委員：

そうだが、厳しいようだ。

名古屋大：

短コロは結構土ついてる？

委員：

グラップルで移動させているので、それほど汚くない。

委員：

個人の森林所有者について、皆伐だったら伐ろうかということになるか。そして、年間どれぐらいの量が出てくるか？

委員：

2の事業での希望は30ha程度。

事務局：

目標値があったとして、どうやって上がっていくのか。

委員：

或る程度あがって、そこから微増になると見込む。

事務局：

2は効果あると考える。

委員：

現実に、裸の山（再造林されてない）が現れてきている。今は禿げ山が出てきているが、2の事業によってそれが防げる。

事務局：

名古屋大学に林齢構成を見せたが、ほとんど伐期とのこと。平準化すべきと指摘されたが、それは難しいと思う。

事務局：

施策づくりには数値目標が必要だ。実際のところ、どのぐらい出てきそうか。どうしたらそれが分かるか。長期的にこれぐらいが目標だ。現実的に、どうやってやるのか。そうしたことを考える必要がある。

県：

試行しかむずかしいのではないか。

事務局：

6000円/tは逆算と巷の単価。試行しかないか。

県：

そうだ。

事務局：

数値目標は市が立てなければならない。業者に何トン出せるかではなく、何トン出してほしいか、とこちらが決めなければならないのではないか。

事務局：

推進計画では 33,000 トンという目標があり、その目標に向けてどうしていくのかを議論する。

県：

今の搬出量は 3,000 トン。それを増加するための意見を聞いて、まとめるという順番。

名古屋大：

一番いいのは補助金ジャスト使い切ることだが、その過不足は次年度調整するということ。15000 トンは、皆伐含めての数字。

事務局：

提案いただいた 2 つの事業も含めて、行政と大学側で協議して、次回提案する。

(2) その他

事務局：

その他意見等ないか

質疑応答：

無し

以上にて終了